

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 下呂特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月14日(水) 10:30~11:30
- 3 開催場所 下呂特別支援学校(多目的室)
開催にあたり、2月9日に委員による高等部作業製品バザーの参観を実施した。
- 4 参加者

会長	細江 節子	下呂市単位民生委員児童委員協議会主任児童委員
副会長	目次 丈太	佐橋工業株式会社生産管理部長
委員	長谷川 和正	株式会社ハウテック総務部長
	野村 克昭	下呂市小川区長
	今井 広一	加子母むらづくり協議会教育分科会
	井口 フキ子	益田山ゆり園施設長補佐
	今井 悠香	下呂市障がい者生活相談センター相談員
	奥田 あゆみ	小坂さくらんぼ教室児童発達支援管理者
	吉村 若菜	下呂特別支援学校PTA会長(欠席)
オブザーバー	田口 広宣	下呂市副市長
学校側	長瀬 朋彦	校長
	林 哲治	教頭
	熊崎 高志	事務長
	原 るみ子	小中学部主事
	小栗 毅石	高等部主事
	石原 さゆり	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 高等部作業製品バザー(ふゆみんぐるバザー)の感想と意見について

意見1:多くの方が来校され、製品がよく売れていた。

意見2:第1回高等部作業製品バザー(なつみんぐるバザー)にも来たが、夏以来の成長を感じる事ができた。

意見3:児童生徒が生き生きと活動しており、自分から挨拶ができ、製品の説明をしてれていた。

意見4:製品の製作を行う生徒数が少なくなってきたので大変ではないかと思われるが、できる範囲で行ってほしい。

意見5:様々な実態の生徒が販売に参加しており、好感がもてた。

意見6：小学部の生徒が高等部の生徒から刺激を受けているように感じた。小学部の児童から自分も将来高等部で皿を作りたいという話を聞くことができた。

(2) 令和5年度 下呂特別支援学校 自己評価について

意見1：卒業生を招いて話を聞く機会を設けたことで生徒が進路について具体的に見通しをもてたようでとても良い。保護者にもこうした機会を設けてほしい。

意見2：10周年記念式典で高等部の生徒が、功労者に感謝状を渡している姿が印象に残った。

意見3：小学部から高等部までのつながりを強く感じる。縦割りの活動をぜひ継続してほしい。

意見4：教師の心身面での安定が丁寧な対応につながるので、働き方を見直して教師が心身ともに健康でいることに努めてほしい。

意見5：和太鼓演奏やバザーは外部へ発信できるいい機会だが、逆に学校として要望はあるか？

⇒和太鼓演奏に関わって楽器の運搬の協力や生徒の負担を考えてお受けできない場合があるというご理解を得たい。

意見6：職員の研修については、福祉サービス事業所でも虐待防止などのケースワークを行っている。今後、情報共有をしていきたい。

意見7：学校での対応は丁寧であるが、卒業後もマンツーマンという状況は難しい。そのことを考慮に入れ、一人のできることを増やしてほしい。

(3) その他（校長より）

- ・教員の働き方については、残業時間は減少する傾向にある。一方で職員間での残業時間の偏りも見られるようになった。
- ・年間の授業日を見直し、適正な日数を確保しながら減らしていき、職員の学ぶ時間の確保に努めたい。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、出席の全委員より今年度の本校の自己評価について承認を得ることができた。

自己評価では、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の地域との交流活動や全校で行う行事について高い評価を得ることができた。また、創立10周年記念式典については、児童生徒が前面に出た心温まる式典だったという意見が聞かれた。

今後も地域の学校としての役割を継続して行ってほしいという意見が多かったが、生徒数の減少などの変化に対応して児童生徒、職員の負担にならないようにという助言があった。また、教師の働き方改革に伴う学校の対応について校長から説明を行ったが、委員からは肯定的な意見が寄せられた。

今年度10周年のメモリアルイヤーで確認した本校の良さを継続していくため、職員の研修体制の充実や効率的な勤務の在り方、行事の発展的な整理に取り組んでいくことの方角性を確認することができた。